

2007年4月17日

2007年度 鉄道事業設備投資計画

安全対策、サービス向上、環境対策などに総額 255 億円を投入

自動列車停止装置(ATS)の更新、車両への安全装置取付け、早期地震警報システムを導入します。
「所沢スタイル」をコンセプトとした所沢駅および駅周辺の開発基本構想に基づき、改良工事を行います。
バリアフリー設備や待合室の設置、駅舎の改良工事を進めます。
池袋線・石神井公園駅付近の高架化工事を今年度中に着手します。

西武鉄道(本社:埼玉県所沢市、社長:後藤高志)では、より安全で快適なサービスを提供し、人にやさしい鉄道を目指して、2007年度は安全対策、サービス向上、環境対策、輸送力増強など、鉄道事業の設備投資を積極的に行います。

まず安全対策としては、今年度も急な曲線、分岐器個所等の制限速度に対しても、より安全性を高めるため、自動列車停止装置(ATS)の更新を行うとともに、車両への安全装置取付けや早期地震警報システムを導入します。

次にサービス向上としては、老朽化した101系、301系車両の代替として、新生西武を象徴する次期通勤車両を平成19年度中は120両のうち24両を新造するほか、地域・社会の発展に貢献し、快適なサービスを提供できる人にやさしい鉄道を目指し、今年度も駅舎の改良、ホーム待合室の整備などを積極的に進めるとともに、駅のバリアフリー化を国、地方自治体等の協力を得ながら進めてまいります。

また、2006年度末に導入したICカード乗車券(PASMO)による定期券発売範囲の拡大などPASMOの利便性向上を図るとともに、自動定期券発売機を新たに28駅に設置し、一層の利便性向上を図ります。

環境対策としては、太陽光発電システムを3駅に設置するほか、車両クーラーの取替などを積極的に進めるとともに、車両の省エネルギー化や改造などに取り組んでまいります。

輸送力増強としては、混雑緩和のために進めてきた池袋線・桜台(新桜台)～石神井公園間の高架複々線化事業のうち、残る石神井公園駅付近について、今年度の夏ごろに工事着工の見込みとなりました。今年度は高架橋構築のための仮駅設備工事および仮線路工事等を予定しています。

詳細につきましては別紙のとおりです。



高架複々線化が完成した池袋線練馬～中村橋間

安全対策

鉄道事業では、安全の確保を経営の最重要課題としてとらえ、鉄道事業者の責任として、自動列車停止装置(ATS)更新、省令変更に伴う車両への安全装置取付、地震対策などの安全対策投資に重点を置きます。

自動列車停止装置(ATS)更新

今年度も、より安全性を高めるため、既存の機能に加えて急な曲線、分岐器箇所等の制限速度に対しても、非常ブレーキが動作する機能を追加した装置への更新を引き続き行います。

車両への安全装置取付

省令の変更に伴い、運転士の異常時に列車を自動的に停止させる装置(E B装置またはデッドマン装置)、列車の速度やブレーキの状況等を把握するための記録装置(運転状況記録装置)、列車防護がより確実に行えるよう、防護無線の電源が断たれても別系統の電源に自動的に切り替える装置を全編成に順次設置していきます。

早期地震警報システムの導入

気象庁が開始した緊急地震速報システムを利用し、大きな揺れで被害をもたらす主要動(S波)が到達する前に、緊急地震速報システムからの情報を受け、列車無線から列車を停止させる旨の自動音声を受けた運転士の手動操作により列車を緊急停止させるシステムです。

ホーム安全対策

ホームからの転落事故に対する安全対策として、今年度は12駅に列車非常通報装置、10駅に列車進入警報装置を設置する予定です。これにより列車非常通報装置は全91駅(小竹向原駅を除く)に対して84駅(設置率92%)に設置され、列車進入警報装置については全91駅(設置率100%)に設置されます。

踏切事故防止対策

踏切内の障害物の存在を運転士に知らせる、踏切支障検知装置を16カ所に新設します。これにより、自動車通行可能踏切の約85%に設置が完了します。

山手跨線橋改築工事

池袋線がJR山手線・埼京線の線路をまたぐ山手跨線橋の架け替え工事を2001年度より着手しており、昨年度、本設橋桁への線路の切り替え工事など主な工事が終了しました。今年度は、擁壁工事などを行います。

多摩川線武蔵境駅付近連続立体交差化

JR中央線高架化工事に伴い、東京都の都市計画事業として多摩川線武蔵境駅付近の高架化工事を2003年度より実施しています。昨年度、高架化され、西武線の踏切3ヶ所がなくなりました。今年度は引き続き高架橋構築(残る1線分)、駅舎などの開業設備の整備などを行います。2008年度の完成予定です。

遠隔放送装置の新設(情報司令から各駅への案内放送)

事故による輸送障害等が発生した際、お客さまに情報をいち早く提供することと、情報を一元化している情報司令から正確な情報をお客さまに提供するため、情報司令から各駅への案内放送ができる遠隔放送装置を導入します。

サービス向上

地域・社会の発展に貢献し、快適なサービスを提供できる人にやさしい鉄道を目指します。今年度、駅舎の改良、ホーム待合室の整備などを積極的に進めていきます。引き続き高齢のお客さまやお体の不自由なお客さまにも安心してご利用いただけるよう駅のバリアフリー化を国、地方自治体等の協力を得ながら進めていきます。また、新生西武の象徴を意識して製造する次期通勤車両の新造をはじめ、利便性の一層の向上を図るため、2008年6月に予定している東京メトロ副都心線との相互直通運転を行う6000系車両の改造工事を引き続き行います。

駅のバリアフリー化 等

整備施設	2007年度整備駅
エレベーターの設置	東長崎(1基)、武蔵藤沢(2基)、萩山(4基)、拝島(1基)、南大塚(1基)、新桜台(3基)
エスカレーターの設置	東長崎(3基)、武蔵藤沢(2基)、拝島(2基)、新桜台(2基)
スロープの改修	白糸台
多機能トイレの整備	武蔵藤沢、萩山、拝島、新桜台、白糸台
お客さまご案内用オープンカウンターの整備	武蔵藤沢、拝島
傾斜型運賃表の整備	武蔵藤沢、拝島
点字運賃表の整備	武蔵藤沢、拝島、新桜台、白糸台
筆談器の設置	駅係員のいる改札口および定期乗車券発売窓口

東長崎駅(2006年度からの設置総数)・・・エレベーター4基、エスカレーター6基
ホーム待合室の整備

2004年度よりホーム待合室の設置を進めておりますが、2007年度は中村橋、富士見台などの高架駅や、鷲ノ宮(下りホーム)、国分寺(多摩湖線・国分寺線各1箇所)、萩山、玉川上水(2箇所)などの乗換駅に合計11駅13箇所にホーム待合室を設置し、2007年度末で23駅26箇所に待合室が設置されます。2007年度以降も順次整備を進めてまいります。

駅舎の改良

所沢駅

池袋線と新宿線が交差する当社線の要の駅でもある所沢駅の改良および駅周辺の開発により、当社のイメージアップならびに沿線の活性化を図り、お客さまに「選ばれる鉄道」を目指します。今後は、開発基本構想をもとに所沢市と協議を進め具体的な事業計画を策定します。駅部分については2010年度、商業施設部分については2011年度の完成の予定です。

東長崎駅

現在の島式ホーム2線を2面島式ホーム4線に改良することで、ホームを拡幅し保安度を向上させると共に、電車の待避設備を設けることで運転時分の短縮を図ります。また、駅舎の改良を行い、南北自由通路・エレベーター4基・エスカレーター6基及び多機能トイレ等を設置しバリアフリー化を図ります。今年度は上りホーム整備などを行います。なお、この事業は国および豊島区と共同で実施する、「駅・まち一体改善事業」により、行っています。

江古田駅

駅舎の橋上化を行い、南北自由通路・エレベーター4基・エスカレーター6基及び多機能トイレ等を設置しバリアフリー化を図ります。今年度に、調査・設計を行い、2008年度より工事に着手します。2009年度に完成予定です。なお、この事業は国および練馬区と共同で実施する、「駅・まち一体改善事業」により行っています。

武蔵藤沢駅

西口土地区画整理事業に伴う道路交通環境改善促進事業による東西自由通路の新設に併せて、入間市と共同で駅舎を橋上化し、東口の開設・エレベーター2基・エスカレーター2基・多機能トイレ、ホーム待合室を整備します。今年度、完成の予定です。

野方駅

駅舎の橋上化を行い、南北自由通路・エレベーター3基・エスカレーター4基及び多機能トイレ等を設置しバリアフリー化を図ります。今年度に、調査・設計を行い、2008年度より工事に着手します。2009年度に完成予定です。なお、この事業は国および中野区と共同で実施する、「駅・まち一体改善事業」により行っています。

狭山市駅

狭山市駅西口再開発事業に伴い、狭山市と共同で駅舎を橋上化し、東西自由通路を新設するとともにエレベーター3基・エスカレーター6基・多機能トイレ等を整備しバリアフリー化を図ります。今年度に、調査・設計を行い、2008年度より工事に着手します。2009年度に完成予定です。

拝島駅

南北自由通路の新設に併せて、当社・JR東日本とも現在の駅舎を橋上化し、西武線のホームにはエレベーター1基・エスカレーター2基を設置するのをはじめ、多機能トイレの整備等を行いバリアフリー化を図ります。また、ホーム待合室の設置、ホーム屋根の増設（10両分に延長）を行います。今年度、完成の予定です。なお、この事業は昭島市および福生市と共同で実施する交通結節点改善事業により行っています。

駅設備のリニューアル等

萩山駅

エレベーター4基および多機能トイレ等を設置しバリアフリー化を図ります。

また、ホーム屋根の増設（上り・下りホーム10両分に延長）、ホーム待合室の設置、旅客トイレの移設を実施します。

なお、この事業は国と東村山市から補助を受けて実施する交通施設バリアフリー化整備事業により行っています。

白糸台駅

多機能トイレの設置およびスロープの整備を行い、バリアフリー化を図ります。

なお、この事業は国と府中市からの補助を受けて実施する交通施設バリアフリー化整備事業により行っています。

西武新宿駅

新宿線の玄関駅である西武新宿駅を2007年度～2009年度の予定で改修を行いバリューアップを図ります。今年度は、北口旅客トイレの改修等を行います。2008年度以降に、ホーム屋根、ホーム床の改修、太陽光発電システムの設置等を行う予定です。

航空公園駅

関東の駅百選に選ばれている航空公園駅を 2007 年度～2008 年度の予定で改修を行います。今年度は、ホーム屋根の増設（上り・下りホームを 10 両分に延長）、警告・誘導ブロックの貼替、エレベーターの更新を行い、2008 年度は旅客トイレの改修、コンコースに列車案内表示器の設置、お客さまご案内用オープンカウンターの設置、エスカレーターの更新を行う予定です。

東久留米駅

老朽化したホームの改修とホーム屋根の増設（10 両分に延長）を行います。2008 年度は、老朽化している北口駅舎の撤去を行ったあとに、北口への連絡通路を設置します。連絡通路には商業店舗やエレベーター、エスカレーターを新たに設置し、旅客サービスの向上を図ります。

新桜台駅

練馬区から補助を受け、エレベーター3 基、エスカレーター2 基及び多機能トイレ等を設置しバリアフリー化を図ります。

南大塚駅

川越市から補助を受け、南大塚駅北口にエレベーター1 基を新たに設置し、旅客サービスの向上を図ります。

旅客案内設備

LED 式列車案内表示器の増設

昨年度で、列車の行先、種別、発車時刻などをご案内する LED 式列車案内表示器の設置が 92 駅中 78 駅に完了し、池袋線・西武秩父線の高麗～横瀬駅、多摩川線の新小金井～是政駅を除く全ての駅に LED 式列車案内表示器が設置されました。

今年度は、下井草駅・東大和市駅のコンコースに増設します。これにより、ホームへ行く前に列車の発車時刻がわかるようになります。

総合案内板の更新

駅に設置してある総合案内板を新しく更新し、鉄道を利用するお客さまにとってわかりやすい案内表示に整備します。

また、外国人のお客さまにも使いやすい駅施設とするため、主要駅や観光地である本川越駅などのきっぷ売り場・トイレ・出口案内などの案内表示を 4 ヶ国語（日本語・英語・中国語・韓国語）表記にいたします。

乗車券類の購入に関するサービス向上

IC カード乗車券（PASMO）の利便性向上

より便利にご利用いただくために、2006 年度から IC カード乗車券（PASMO）の提供を開始いたしました。今年度は、IC カード乗車券（PASMO）による定期券発売範囲の拡大など PASMO の利便性向上を図ります。

自動定期券発売機の増設

自動定期券発売機を新たに 28 駅に設置し、お客さまへサービスの向上を図ります。2007 年度末で 46 駅に自動定期券発売機が設置され、定期券発行機の駅を含めると 48 駅にて定期券の購入が可能となります。

車両関係

次期通勤車両を新造

老朽化した101系、301系車両の代替として、新生西武を象徴する次期通勤車両を120両新造する予定で、今年度は3編成(8両3編成)を新造します。

相互直通運転車両対応工事(6000系)

交通ネットワークの一層の機能強化を図るため、2008年6月の開業に向けて、池袋線と東京地下鉄副都心線との相互直通運転を行う6000系車両の改造工事を引き続き行います。2007年度は6編成の改造工事を実施します。相互直通運転により、渋谷方面に乗り換えをすることなく行くことができるなど利便性が飛躍的に向上します。2012年度には東急東横線への相互直通運転開始を予定しています。

バリアフリー化工事等の推進

車椅子スペースの設置、車内表示器の設置などのバリアフリー化工事を2000系車両1編成(6両)、101系ワンマン車両1編成(4両)に実施いたします。

また、このほかに車両のドアが開閉する方向を知らせるドアチャイムを2000系車両3編成(12両)に、連結器部分への転落防止を音声で呼びかける放送装置を2000系車両7編成(7両)に設置いたします。

特急車両の車内装備更新

特急車両10000系の座席および内装の更新、トイレの内装更新、洋式トイレの自動ドア化など車内装備の更新を行います。今年度は2編成を実施します。

山口線8500系車両を設備改良

多客時の乗降をスムーズにするため、先頭車両部のドア付近に吊手および握り棒を設置するとともに、座席の配置を変更します。今年度、山口線1編成に実施します。

2000系にフルカラーのLED式表示器を導入

従来の3色のLED式表示器に比べ、昼間時の視認性が向上するフルカラーのLED式表示器を導入し、今年度は2000系3編成(8両2編成、6両1編成)に設置いたします。

吊手増設

お客さまに安全・快適にご乗車いただけるように、車両の出入り口扉付近に吊手を増設いたします。2007年度は176両を整備し、2008年度までに668両に増設する予定です。

環境対策

騒音、振動の軽減や省エネルギー化などの環境対策に従来から取り組んでおりますが、今後も環境対策を推進するため、太陽光発電システム、車両の省エネルギー化、車両クーラーの取替などを積極的に進めます。

太陽光発電システム

駅舎の屋根上に太陽光を利用した発電システムを導入します。昨年度は、下井草駅に設置しましたが、2007年度は東長崎駅・拝島駅・武蔵藤沢駅の3駅に設置する予定です。

車両の省エネルギー化

9000系車両を省エネルギー効果の大きいVVVFインバータ制御に改造する工事を引き続き進めます。2007年度は2編成を改造し、9000系車両8編成の全ての改造が終了します。

車両クーラーの取替

現在のクーラー冷媒として使用しているフロンがオゾン層を破壊するため、オゾン層を破壊せず、地球温暖化に対する影響が少ない代替フロンを使用したクーラーに置き換えています。2007年度は38台の取り替えを行います。

回生電力吸収装置の設置

電車がブレーキの際に発生する1500Vの回生電力を、「電気二重層キャパシタ」という電池式の貯蔵装置を用いて回生電力を吸収し、その電力を電車の力行時に放出することで、省エネルギー化を図ります。

輸送力増強

石神井公園駅付近高架複々線化工事

池袋線の高架複々線化工事については、昭和46年の都市計画決定以来、東京都、練馬区などと協力して工事を進め、2003年3月に、桜台（新桜台）～練馬高野台間が完成いたしました。

石神井公園駅付近については、2003年4月、国から連続立体交差事業の新規着工準備採択を受け、2005年6月、大泉学園駅付近まで高架化を延伸する都市計画が決定されました。その後、関係機関との手続きを進め、今年度の夏頃に工事着工の見込みとなりました。

今年度は、高架橋構築のための仮線路工事および仮駅設備工事等を予定しています。

この事業が完成すると、線路の高架化により合計9ヶ所の踏切がなくなり、踏切事故や交通渋滞の解消が図れます。石神井公園駅において2面4線化されたホームとなり、急行電車と普通電車が同じホームで乗り換えられるようになり、お客さまの利便性が向上します。

以上